

政策評価調書(2年度実績)

政策名	芸術文化による創造県おおいの推進	政策コード	Ⅲ-2	関係部局名	企画振興部、教育庁
-----	------------------	-------	-----	-------	-----------

【Ⅰ. 政策の概要】

多彩な芸術文化に親しむ機会の充実、芸術文化の魅力発信強化、芸術文化ゾーンと文化施設、アート系NPO等との連携など、芸術文化の創造性を生かした行政課題への解決に取り組むとともに、文化財の保存・活用に関する総合的な施策の推進など、計画的な文化財・伝統文化の保存・活用・継承を進める。

【Ⅲ. 政策を構成する施策の評価結果】

	施策名	指標評価	総合評価
1	芸術文化の創造	著しく不十分	C
2	芸術文化ゾーンを核としたネットワークづくり	著しく不十分	C
3	文化財・伝統文化の保存・活用・継承	著しく不十分	C

【Ⅴ. 政策を取り巻く社会経済情勢・今後の動向】

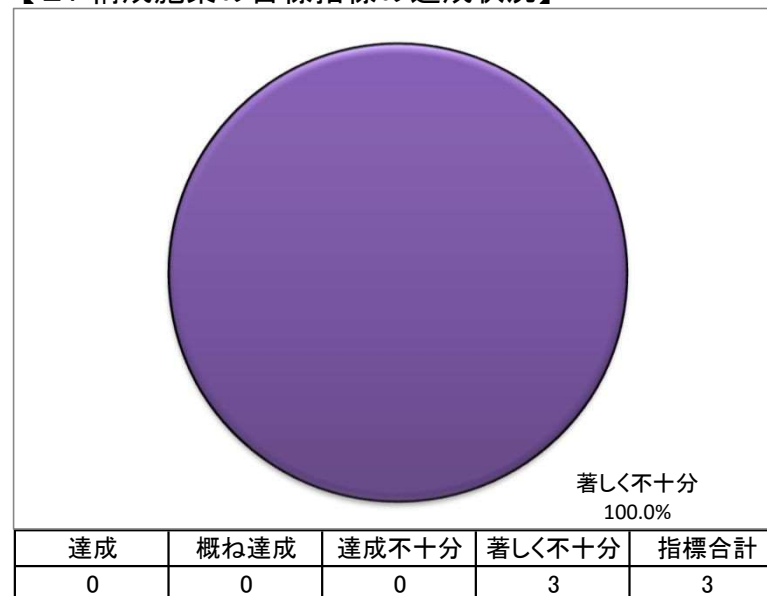
県民誰もが質の高い多彩な芸術文化に触れる機会を確保するとともに、主体となって芸術文化活動に取り組むことのできる環境整備の充実が求められるが、コロナ禍により、特に芸術文化に触れる機会が著しく減っていることから、デジタル手法の活用などが必要である。

芸術文化ゾーンを中心として、芸術文化関係団体をはじめ、教育・産業・福祉・医療など様々な分野の団体等と連携し、芸術文化振興を図っていく必要がある。

県立美術館を中核とし、県内各地域の文化施設や観光地を往来・循環しながら、地域文化や歴史等を体験するカルチャーツーリズムの推進に向けた取り組みがR2年度から始まり、今後の展開が期待される。

県内には、各地域で長い間受け継がれてきた文化財・伝統文化が数多く残されている。過疎化・少子高齢化を背景に、文化財の担い手不足による滅失や散逸の防止が喫緊の課題であり、各地域の文化財・伝統文化の計画的な保存・活用・継承のために、大分県文化財保存活用大綱に基づく市町村による地域計画作成の促進などの取り組みが必要である。

【Ⅱ. 構成施策の目標指標の達成状況】



【Ⅳ. 評価が著しく不十分となった指標】

指標名	達成率
県立美術館入場者数(万人)	52.0%
子どもたちが芸術文化に触れる機会(人)	54.4%
県立歴史博物館・先哲史料館・埋蔵文化財センターの利用者数(万人)	72.9%

<著しく不十分となった理由>

新型コロナウイルスの影響による休館や開館時間の短縮など利用制限、イベントの中止により、目標値を達成できなかった。

県立美術館については、新型コロナウイルスの感染症対策を行いつつ、多様なジャンルに挑戦する企画展と集客力のある企画展をバランスよく実施する。

子どもたちが芸術文化に触れる機会については、文化体験講座の参加対象を拡大する。

県立歴史博物館・先哲史料館・埋蔵文化財センターについては、新型コロナウイルスの感染防止対策を徹底し、魅力あるイベントの開催や広報活動に努める。